

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2372500484
法人名	社会福祉法人恩賜財団 愛知県同胞援護会
事業所名	グループホーム春緑苑
訪問調査日	平成 20 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372500484
法人名	社会福祉法人恩賜財団 愛知県同胞援護会
事業所名	グループホーム春緑苑
所在地	愛知県春日井市廻間町703-1 (電話) 0568-88-7917

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年2月4日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 11 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 11.3 人

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,600 円	その他の経費(月額)	13,050 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり 780 円			

### (4)利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	田島クリニック さがクリニック 中田歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

春日井市周辺の丘陵地帯に建てられた特別養護老人ホームや通所介護施設、ケアハウス、障害者施設に隣接する木造2階建て2ユニットのグループホームである。同じ地域にある同一法人の諸施設と一緒に行動する機会が多く、「ゆったり、たのしく、いっしょに」の気持ちを大切にしている。また、利用者の「できること・できないこと」を把握し、残存能力の維持に努めている。各居室にはトイレや洗面所の設備がされ、各室のベランダは日当たりが良く明るい。職員は法人内外の研修に参加し専門的能力の研鑽に努めている。受付には苦情解決窓口が設置され、当ホーム以外の職員として第三者委員を置いている。家族その他の面会時には個別対応で意見・苦情・要望などを聴きサービスの質向上を図る努力がされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回は運営推進会議や災害対策等が改善課題として揚げられていた。運営推進会議は今年度もなかなか開催できておらず改善に至っていない。災害対策は夜間想定訓練の実施をし改善された。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員それぞれが自己評価を行い、副施設長がまとめている。自己評価を行うことで日頃の見落としや新たな気づきの確認ができたので、業務改善やサービスの質の向上に活かす取り組みをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは利用者・家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、グループホーム管理者・職員であるが、予定が合わず定期開催はされていない。地域関係者とホーム職員双方が参加することに意義のある会議であることと、定期的に開催し討議を重ねることが地域に密着したサービスの質の向上に繋がることを理解してもらえるように期待している。</p>
重点項目③	<p>家族の面会時等には個別に対応し意見等を聴くようにしている。また苦情解決窓口を設け第三者委員を置いている。意見・苦情・要望はサービスに反映させるよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人にボランティアで野菜作りの指導などをしてもらっている。日常の散歩、買い物や喫茶店に出掛けたりする中で積極的に挨拶を交わすなど、地域交流を図っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別にホーム独自の理念として、利用者一人一人を大切にしていつまでも「普通」に暮らせるよう、その人の「できること・できないこと」を把握し「できること」をより長く、「できないこと」を支援することを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がいつも目にする場所に理念を掲示し、ミーティングの際には理念の確認を行っている。理念を念頭において介護計画を作成し、職員は理念を共有し、介護の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	丘陵地に建ち周囲の建物は特別養護老人ホーム等の施設や事業所であり、ふもとまで下りないと民家がないが、散歩時にふもとの寺まで行ったり、地域の人のボランティア(例:野菜作りの指導、縫い物)受け入れで地域交流を図っている。また、ケアハウスと交流を持ったり、同一法人や他法人の行事や地域の行事に参加し、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しそれぞれが自己評価に取り組み、副施設長がまとめている。自己評価を行うことで見落としや新たな気づきを確認し、業務改善やサービスの質の向上に活かそうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5か月に1回の開催としているが、運営推進会議メンバーの都合が合わず今年度は1回の開催である。	○	メンバーに参加を働きかけ定期的な開催を検討し、話し合いの場として欲しい。今後に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの担当者は運営についての不明な点や確認すべき点などを市役所の担当者に相談し、サービスの質の向上に努めている。担当者が交替し、回数が減ってきている。	○	ホームの状況を定期的に報告するなど、交流の機会を増やしていき、サービスの質の向上に取り組んで欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、生活記録や金銭出納簿、たより等の送付をし、家族面会時には利用者の状況を伝えている。利用者の状態に変化があった場合には、その都度電話での報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に個別に対応し意見等を聴くようにしている。また苦情解決窓口をホームに設け、第三者委員を置いている。苦情・要望があればサービスに反映させるよう努めている。今の所、苦情・要望はほとんどない。今後は意見箱の活用を検討している。	○	家族には折々に意見箱が置かれていることや、その活用について知らせて意見箱の有効な活用を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職時には申し送りを徹底し利用者のダメージを最小限にする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は全員、法人内の研修や勉強会に参加している。県のグループホーム協議会の研修等外部研修にも職員が年1回以上は参加できるようにし、研修参加後は資料の閲覧をしている。今後はパート職員の勉強機会を増やしていきたいと考えている。	○	常勤と非常勤の区別のない研修参加や勉強の機会を増やしていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加盟している。協会の尾張地区相談委員会に出席し意見・情報交換をし、出席後は職員間で情報の共有化を図りサービスの質向上に活かそうとしている。職員が他グループホームを訪問し、刺激を受けることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族による見学を実施してできるだけ不安の解消に努め、必要に応じて昼間だけの体験や宿泊を伴う体験も行い、安心と納得を得た上で入居できるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は基本的には家事全般を利用者と共に行うが個人個人の違いを見極め、できない部分を把握し支援している。日々の生活の中で利用者に教えてもらう「場面作り」を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の表情や些細なしぐさなどから本人の思いや意向を把握するように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員のミーティングでの意見交換や確認を十分に行い、本人の意向や希望だけでなく家族のニーズも考慮しながらまた、その他の関係者の意向を聴き、計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度利用者全員の計画書の見直しを行い、また、随時必要に応じて本人の状況にあった計画書を作成してよりよいサービスの提供を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のニーズに合わせて通院、外出、行政手続きの代行など柔軟な対応を心がけ、それらは職員の勤務体制を調整しながら支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の受信、往診を基本としているが本人や家族の希望に添えるよう家族の協力も得ながら個々に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、ホームでの対応が不可能と思われる時点で、家族に十分な説明を行い理解を得ている。必要に応じて家族と連絡を取りながら対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については職員全員が十分理解し、記録や個人情報の保護についても徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を尊重し個々のペースを大切にしながら生活できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは法人内で統一されているが同じ材料の中で利用者の好きな献立に変更したりして食事を楽しめるようにしている。職員は利用者の好みを把握し嫌いなものは出さないように心がけている。利用者は食事の準備や片付けなどは職員と一緒にこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後3時半から6時位の時間帯の希望が多いが夜も対応可能である。入浴したくない利用者については、気分を変えて施設外の浴場に同行することもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や買い物のほか趣味などについても利用者の気持ちに添って個々に楽しめるように対応している。また本人の得手不得手も考慮しながら役割や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日にちや時間など本人の希望にすべて添えるわけではないが時間を変更したりしながら職員の体制で可能な限り、喫茶店や買い物に同行するなどの支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないため一人で外出しようとする利用者にはさりげなく職員が同行し見守っている。外出の理由を探り好ましいやり方で次回に活かしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震に備えて避難訓練を毎年4月に消防署の協力を得て実施している。また、夜間訓練を含めて同所にある他施設と同時に訓練を実施している。消火器の使い方についても職員や利用者は年に一度指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーについては法人全体を栄養士が管理している。個人の食事摂取量は水分摂取量も含めて記録、利用者の摂取量の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から差し込む自然光はレースのカーテンで調節している。リビングには季節の花を生け、クリスマスや節句など季節の行事にあわせてみんなで飾り付けを楽しんでいる。玄関にもいろいろな手作り作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、トイレ、洗面台が設備されている。設置。その他の生活用品は使い慣れた物を持ち込めるように配慮されている。利用者は今までの生活で思い思いに馴染みのものを持ち込んで心穏やかに過ごしている。		